



鏡の島と陸の孤島
 ～欠けゆく町の再生～

敷地

三重県鳥羽市石鏡町
 世帯数：243 世帯
 人口：533 人
 うち高齢者数（65 歳以上）：209 人
 高齢化率：39.2%



鳥羽駅から車で約 20 km の場所にあり、伊勢湾口と熊野灘に面するところに位置している。山に沿って形成された漁村で、海女の故郷として知られる景勝の地である。



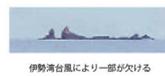
歴史

●鏡の島

石鏡の名前の由来は、沖合約 1 km にある小島が鏡のように見えたことからである。昔から町の人に崇敬されてきた島で、現在は鏡のようであった原型をとめおらず、欠けた状態となっている。



鏡のようであった原型



伊勢湾台風により一部が欠ける



船の直撃によりさらに欠けた現在の姿

伝統

●海女

海女の本場として知られ、伊勢神宮にアワビを献上していた。しかし、現在は高齢化や労働者不足が問題となっている。



●地芝居

石鏡神社の南側に舞台。志摩地方では、地域に根付いた地域住民によって演じられる歌舞伎を中心とした伝統芸能である地芝居が盛んで、各地に舞台がつくられた。石鏡にも舞台がつけられ、子供歌舞伎などが行われていた。現在は年に一度、夏の天王宮でのみ使用されており、老朽化が進む。

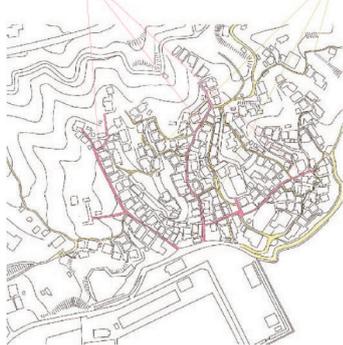


●神奈

陸の孤島であったことから、町には昔からの神奈が多く残っている。その中の一つに「ターゴ」という神奈がある。お盆に行われるもので、かつては灯籠流しをしていたが、海を守るために現在では灯籠を持って歩くようになった。太鼓を先頭から神社を回り、海岸広場へ下りルートを町を歩いていたが、太鼓を担ぐ人の負担が大きいため、だんだんとルートが短くなっていき、現在では石段を下りる工程はなくなりました。

路地

山に沿ってできた漁村であるため、階段状の路地が張り巡らされている。等高線に沿った路地と、それを垂直につなぐ路地が 3 本あり、この道は町の主要な動線となっている。路地は完全に人の空間となっているため、生活があふれ、階段に腰をかけて井戸端会議をする様子もうかがえる。



主要な施設・広場

不特定多数の人が使う場所として、以下のものがあげられる。
 海岸広場では漁師さんや海女さんが作業をしたり移動販売車が来て、それを買う人がいたり、食堂でくつろぐ人がいたり、さまざまな行動が行われる。山深いであるため、平らな場所があまりなく、海濱を平手作業などを主に行っている。

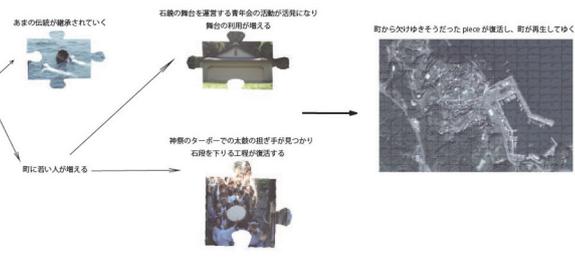


三重大学工学部建築学科 2013 年度建築企画設計優秀作品
 「鏡の島と陸の孤島～欠けゆく町の再生」 鈴木 友紀子

コンセプト



陸の孤島であったころから続く伝統や文化が欠けてゆきつつある...
 まるで鏡のように欠けた小島は、現在では一部が欠けてしまっ、原型を失っている...



鏡の欠けた部分をたぎ、再生させるように
 町から欠けてゆきそうなものを再生させ、町の歴史を未来へつなく

提案

あまの学校+学生寮+新公民館

●学校の概要

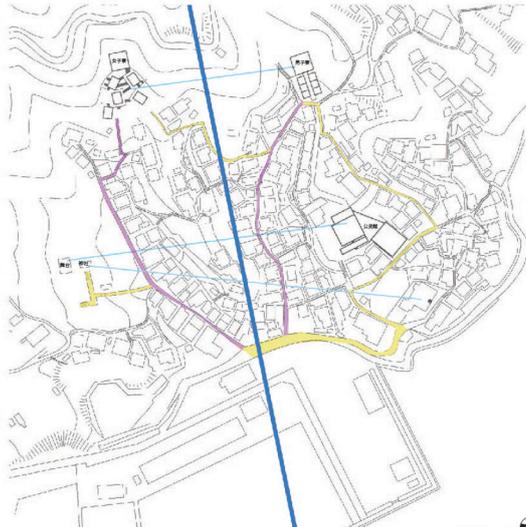
島周辺でかつて行われていた修験子制度を参考にあまの学校を考案。修験子制度とは、中学校卒業した男子が修験者と呼ばれる修験者の大のものと4・5人の修験子とともに共同生活をすることで、この共同生活を修験子といふ。この概念でも行われていた。修験子制度は、まるで修験者という先生のもとに修験子という生徒が、町の文化・伝統を学びに遠く学校にやってくる。そこで、海女の学校では修験子制度として考え、空き家を利用して町の中に散らす。また、学生は4人グループを編み、そのグループで授業を受けたり、学生寮でホームステイになったりする。

○町の中心軸
 町を縦につく道のうち、町の中心とある道を町の中心軸とする。この軸を中心に町を設計を行う。

○町のタワー-島屋の利用
 町を縦につく道の両側に学生寮を配置し、中心軸に於いて対応関係をつくる。また、島屋に設置することで、町のタワー-島屋より、町の学生の活動の場が広がる。

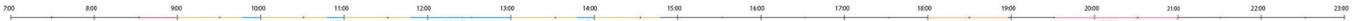
○ターゲーター-船の島の利用
 今では使われていない。寺を築いて神社を通り、海女-船-行(ルート)をつくるように、学生寮や修験子を配置する。

○神社と公民館の関係
 町を縦につく道のうち、町の真ん中に位置する道を町の中心軸とする。公民館は公民館と神社の間に配置することで、神社と公民館の関係を築くと考え、設計を行う。



配置図 1:1500

ある生徒の一日



教室の計画

町の中に分散させる教室は、教室部分を土間空間とし、教室前の端地との空間が広がることを考えた。また、先生が教えられるような設備を備えており、外部から来る先生や、通いの先生が利用する。



●プログラム

あまの学校では、プロのあまを目指すコースと観光あまを目指すコースを設置し、それぞれ20人程度、合計40人程度とする。観光あまコースでは、潜水技術や修験子、歴史・文化、物産についても詳しく学ぶ。

・ベテランあまコース：ベテランのあまを目指す

共通科目 水産基礎 海産調理 水産動物 数学 社会 家庭 歴史 英語
 専攻科目 水産基礎 潜水術 呼吸法 実習 (ベテランあまコースの方が実習時間が長い)

・観光あまコース：観光あまを目指す

共通科目 + 専門科目 水産食品製造 水産食品管理 水産食品流通 水産食品開発

○海の博物館との交流

島嶼から車で約15分ほどの場所に海の博物館は、海と島の歴史を伝える博物館で、ここでは、島の文化を学ぶための交流が行われている。そこで、本学は島の歴史館で海の博物館で実習を行う予定がある。また、博物館で行われる海産品に関する行事に参加し、海産品について情報交換を行う。



○ミキモト真珠島との交流

島嶼から車で約15分ほどの場所に真珠島は、真珠の歴史や文化を伝える博物館で、ここでは、島の文化を学ぶための交流が行われている。そこで、本学は島の歴史館で真珠島の交流を行い、真珠の歴史や文化について情報交換を行う。



女子寮

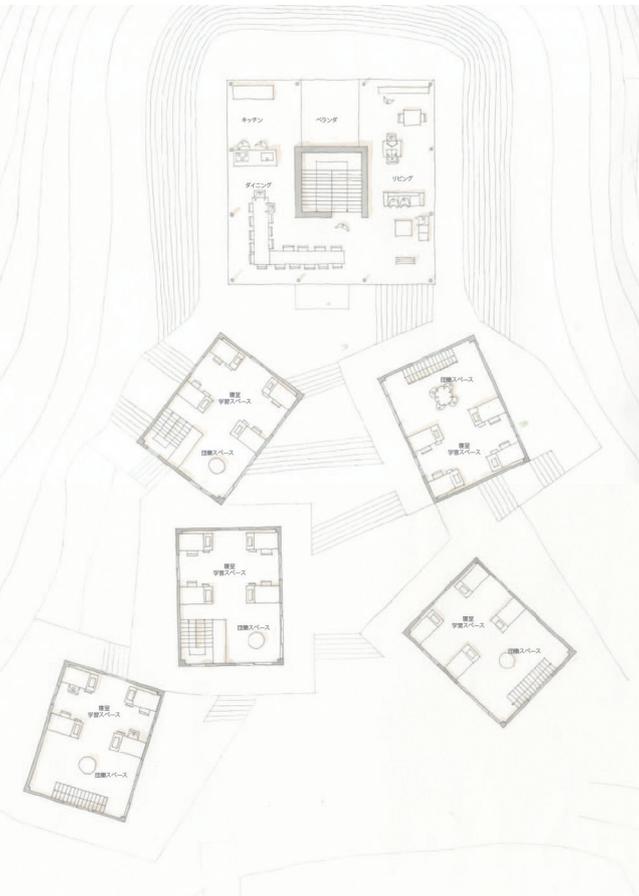
修験子制度から、授業を一緒に受ける4人で一泊する単位で、4人1泊する4人1泊の生活を行う。

ターゲーター-島の利用
 ターゲーター-島の利用は、島の歴史や文化を学ぶための交流が行われている。そこで、本学は島の歴史館で島の博物館で実習を行う予定がある。また、博物館で行われる海産品に関する行事に参加し、海産品について情報交換を行う。

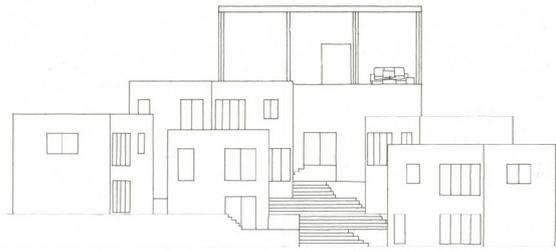
島嶼の歴史を大規模な大規模として西側に配置し、島の歴史館の歴史館が外へ広がる。



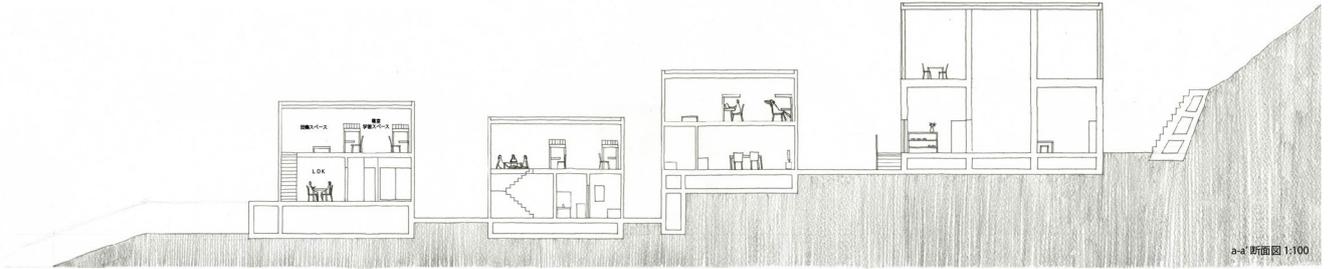
1階平面図 1:100



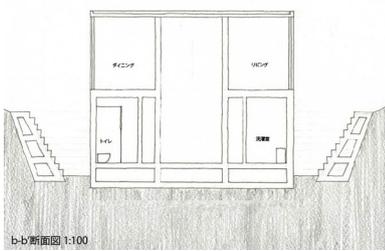
2階平面図 1:100



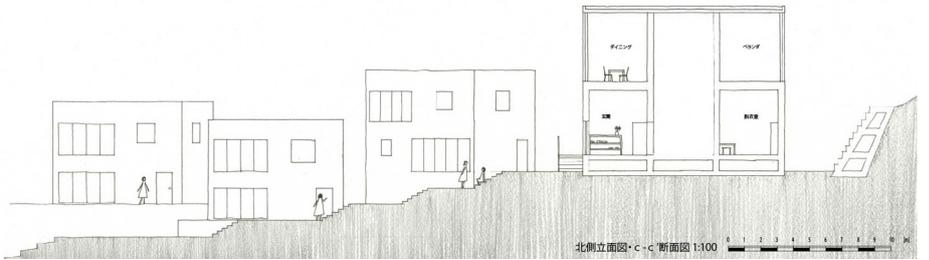
東側立面図 1:100



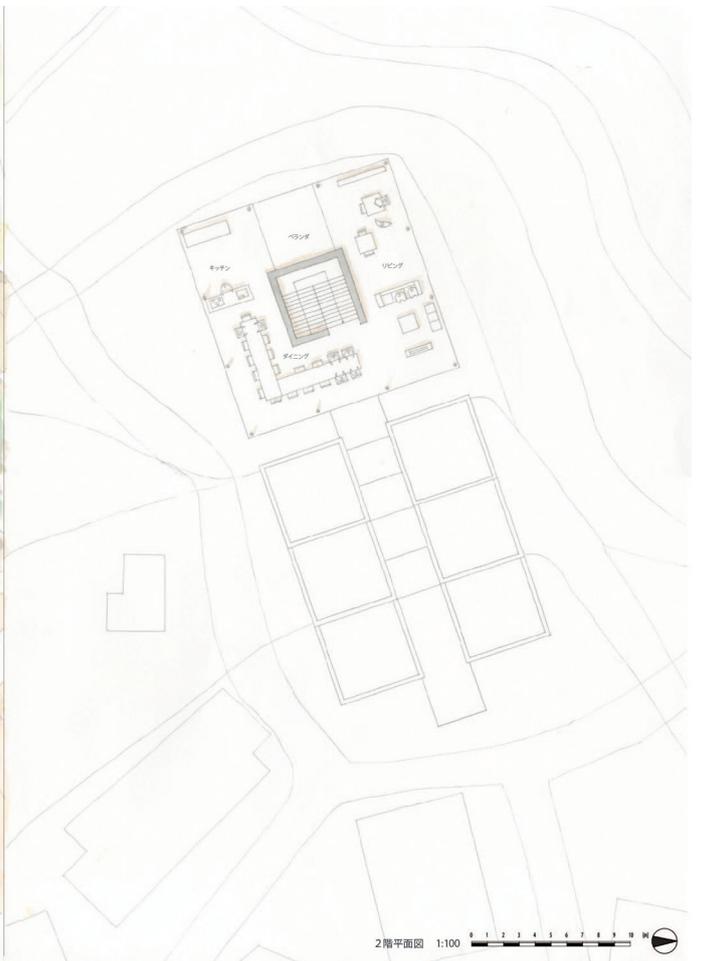
a-a 断面図 1:100

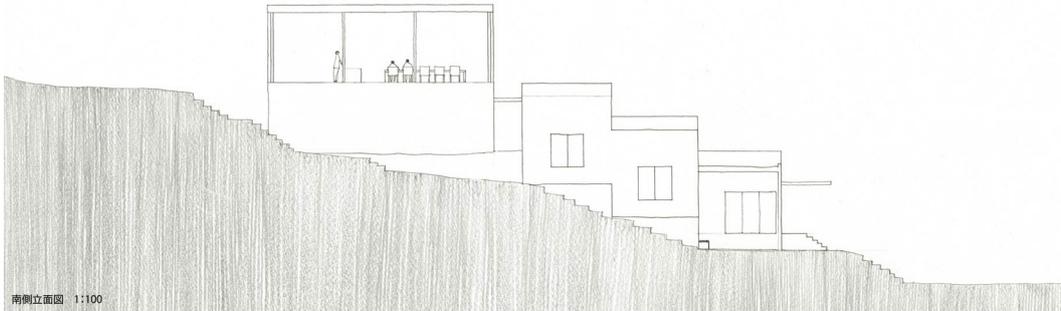
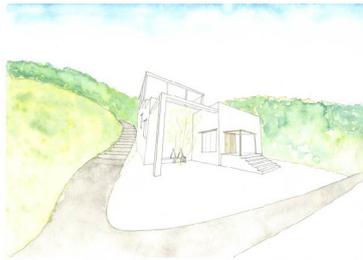


b-b 断面図 1:100

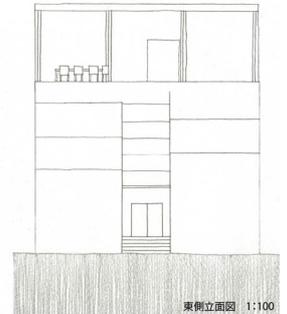


北側立面図・c-c 断面図 1:100

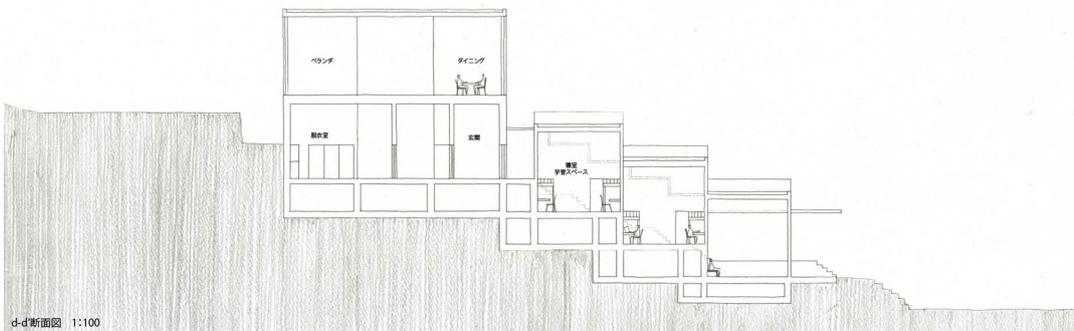




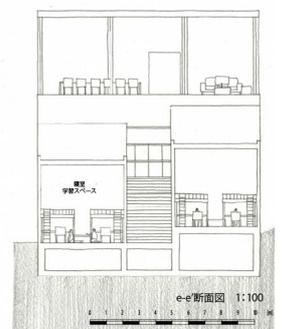
南側立面図 1:100



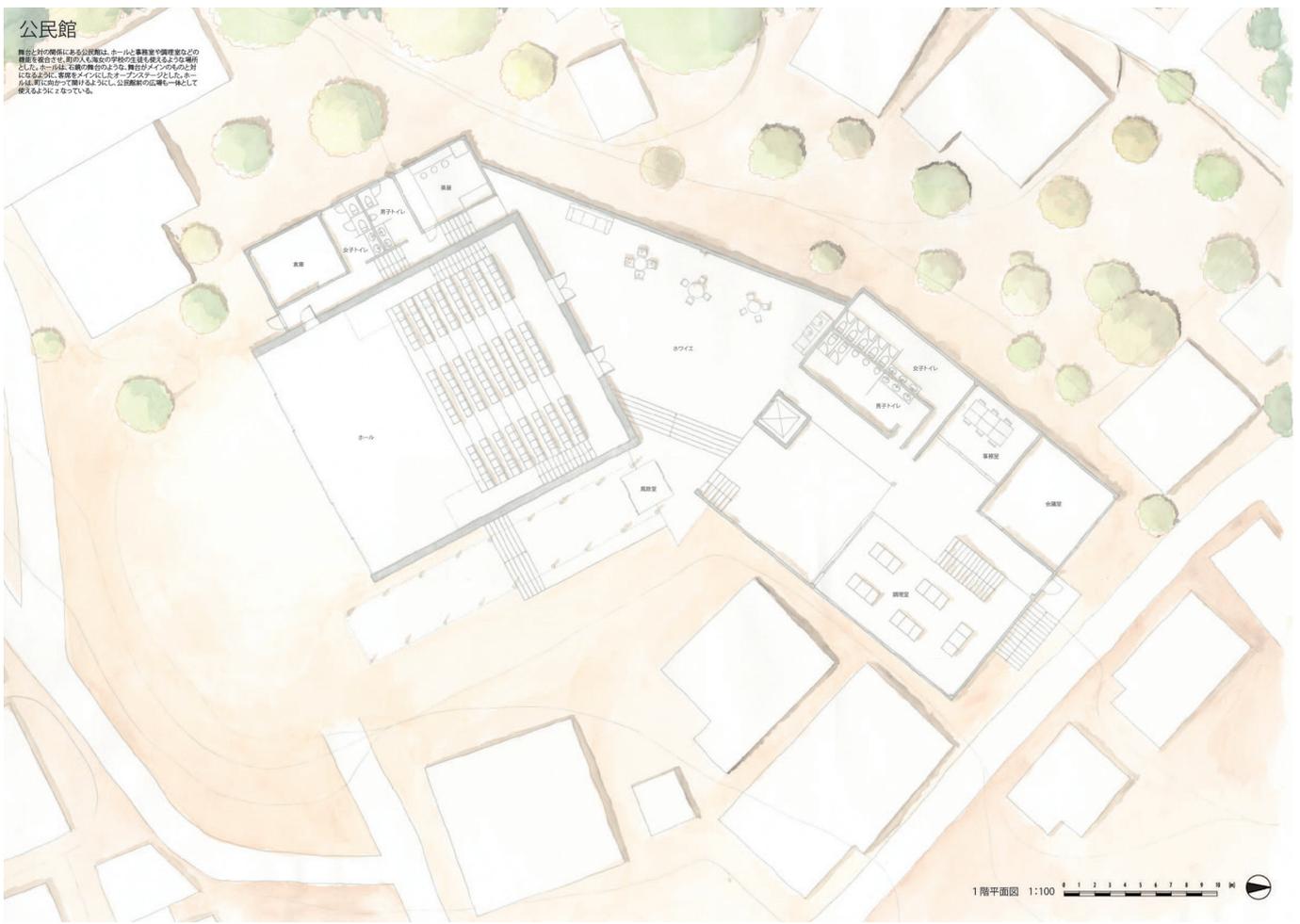
東側立面図 1:100



d-d断面図 1:100



e-e断面図 1:100



公民館
 舞台とホールを併せ持つ公民館は、ホールと集客型演習室などの機能を併せ持つ。この公民館は地域の再生を促すための拠点として、ホールは、広場の舞台のような、舞台メインのものと対峙する。また、集客型メインのオープンスペースとして、ホールは、舞台に隣接して設けられるようにし、公民館の広場も一体として使えるようにしている。

